

現行 (ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 平成 21 年 7 月)	改定 (鋼製ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 令和 6 年 7 月)	備考
<p>ケーブルラック及び支持金具標準仕様書</p> <p>施仕 09408-1 号</p> <p>平成 21 年 7 月</p> <p>東日本高速道路株式会社</p>	<p>鋼製ケーブルラック及び支持金具標準仕様書</p> <p>施仕第 24408-1 号</p> <p>令和 6 年 7 月</p> <p>東日本高速道路株式会社</p>	

現行 (ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 平成 21 年 7 月)	改定 (鋼製ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 令和 6 年 7 月)	備考																		
	<p style="text-align: center;">改定等履歴</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th data-bbox="1279 363 1507 415">改訂等年月</th> <th data-bbox="1507 363 1733 415">種 別</th> <th data-bbox="1733 363 2326 415">改定等概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1279 415 1507 468">令和 6 年 7 月</td> <td data-bbox="1507 415 1733 468">改定</td> <td data-bbox="1733 415 2326 468">JIS 改正に伴う名称修正</td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 468 1507 520"></td> <td data-bbox="1507 468 1733 520"></td> <td data-bbox="1733 468 2326 520"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 520 1507 573"></td> <td data-bbox="1507 520 1733 573"></td> <td data-bbox="1733 520 2326 573"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 573 1507 625"></td> <td data-bbox="1507 573 1733 625"></td> <td data-bbox="1733 573 2326 625"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="1279 625 1507 678"></td> <td data-bbox="1507 625 1733 678"></td> <td data-bbox="1733 625 2326 678"></td> </tr> </tbody> </table>	改訂等年月	種 別	改定等概要	令和 6 年 7 月	改定	JIS 改正に伴う名称修正													
改訂等年月	種 別	改定等概要																		
令和 6 年 7 月	改定	JIS 改正に伴う名称修正																		

現行 (ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 平成 21 年 7 月)	改定 (鋼製ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 令和 6 年 7 月)	備考
<p>1. 総 則</p> <p>1-1 適用範囲</p> <p style="text-align: right;">(中略)</p> <p>1-2 適用規格</p> <p>下記規格を適用する。</p> <p>(1) 日本工業規格 (J I S)</p> <p style="text-align: right;">(中略)</p>	<p>1. 総 則</p> <p>1-1 適用範囲</p> <p style="text-align: right;">(中略)</p> <p>1-2 適用規格</p> <p>下記規格を適用する。</p> <p>(1) 日本産業規格 (J I S)</p> <p style="text-align: right;">(中略)</p>	

現行 (ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 平成 21 年 7 月)	改定 (鋼製ケーブルラック及び支持金具標準仕様書 令和 6 年 7 月)	備考
<p>3. 材料及び構造</p> <p>(中略)</p> <p>3-3 ケーブルラック及び支持金具は、加工後に溶融亜鉛めっき仕上げ JIS H 8641 HDZ55 を行うものとする。</p> <p>3-4 直線ケーブルラック 1 本の長さは 3000mm を標準とする。</p> <p>3-5 子桁の設置間隔は子桁中心に 300mm 間隔を原則とする。</p> <p>3-6 ケーブルラック本体相互の接続に使用するボルト・ナットは、溶融亜鉛めっき仕上げ JIS H 8641 HDZ35 とする。</p> <p>3-7 製品の仕上がり精度 (ひずみ) は、ラックを平坦部に置き、ラックの浮きが 10mm 以内とする。</p> <p>3-8 ケーブルラックの終端部及び自在形屈曲部には接地端子を設ける。</p> <p>3-9 ケーブルラックの終端にはケーブルラックエンドを設けるものとする。</p> <p>3-10 地下道及び共同溝に設置されるケーブルラックの終端には端末保護キャップを設ける。</p> <p>3-11 トンネル (積雪寒冷地) より腐食環境が特に著しいトンネルでは、トンネル (積雪寒冷地) に用いる鋼材仕様に溶融亜鉛アルミニウム合金めっき仕上げとし、めっき付着量はケーブルラック及び支持金具は 350 g/m² 以上、ボルト・ナットは 250 g/m² 以上とする。</p>	<p>3. 材料及び構造</p> <p>(中略)</p> <p>3-3 ケーブルラック及び支持金具は、加工後に溶融亜鉛めっき仕上げ JIS H 8641 HDZT77 を行うものとする。</p> <p>3-4 直線ケーブルラック 1 本の長さは 3000mm を標準とする。</p> <p>3-5 子桁の設置間隔は子桁中心に 300mm 間隔を原則とする。</p> <p>3-6 ケーブルラック本体相互の接続に使用するボルト・ナットは、溶融亜鉛めっき仕上げ JIS H 8641 HDZT49 とする。</p> <p>3-7 製品の仕上がり精度 (ひずみ) は、ラックを平坦部に置き、ラックの浮きが 10mm 以内とする。</p> <p>3-8 ケーブルラックの終端部及び自在形屈曲部には接地端子を設ける。</p> <p>3-9 ケーブルラックの終端にはケーブルラックエンドを設けるものとする。</p> <p>3-10 地下道及び共同溝に設置されるケーブルラックの終端には端末保護キャップを設ける。</p> <p>3-11 トンネル (積雪寒冷地) より腐食環境が特に著しいトンネルでは、トンネル (積雪寒冷地) に用いる鋼材仕様に溶融亜鉛アルミニウム合金めっき仕上げとし、めっき付着量はケーブルラック及び支持金具は 350 g/m² 以上、ボルト・ナットは 250 g/m² 以上とする。</p>	